

要 望 事 項

一 都立高等学校特別教室の環境改善について

全都立高等学校特別教室への空調設備導入が本年度決定され、東京都公立高等学校 PTA 連合会の要望実現にご協力いただき、ありがとうございました。

私どもで今年7月に実施した特別教室に関するアンケート調査では、未だ空調未稼働教室では35℃を超える結果もでていきますので、全教室への設置加速に向け引き続きご協力をお願い申し上げます。

(平成27年度政党ヒアリング添付資料

「学校教育環境」に関するアンケート調査結果3頁参照)

- 1 生徒・教職員の熱中症対策等、全特別教室の空調設備の導入計画を加速し、早期設置を加速されたい。

二 都立高等学校へのスクールカウンセラー配置の維持改善について

都立高等学校へのスクールカウンセラー配置は、都議会のご協力により平成25年度に全校配置実現し、2年間経過しています。

私どものスクールカウンセラーに関するアンケート調査によれば、未だ全体の30%を超える学校よりスクールカウンセラーが不足していると要望がでていきます。またスクールカウンセラーの方々の性別による年間生徒受診人数に約15%程度の差が出ております(但し、男子・女子生徒の受診人数の割合は同等)。

一方で社会の多様性の変化はますます加速され、カウンセリングニーズは多岐にわたる内容とともに即時性も重要な要素になっています。

スクールカウンセラーは一人配置の高校が多いのが現状ですが、生徒の健全な育成を支援するために、全校配置の継続に加え、スクールカウンセラーの複数化など継続的的制度改善に向けご協力をお願い申し上げます。

(平成27年度政党ヒアリング添付資料

「学校教育環境」に関するアンケート調査結果4、5頁参照)

- 1 全都立高等学校へのスクールカウンセラー配置を継続されたい。
- 2 生徒の高校生活をより充実させる目的で継続的的制度改善を実施されたい。
  - (1) 生徒とスクールカウンセラーとの相性等の課題に向け生徒による複数のスクールカウンセラーと相談し、選択できるような制度導入を実施されたい。
  - (2) カウンセリングニーズの時期的集中、新入生全員カウンセリングなどスクールカウンセラーが不足した時にも対応できるような柔軟性を確保されたい。

要 望 事 項

三 都立高等学校の設備改善について

都立高等学校には築30年以上の校舎も多く、施設の老朽化問題の一つに配管等のインフラ含めたトイレ設備があります。

私どもの校内トイレに関するアンケート調査の結果によれば、全体として45%のトイレが洋式化されているものの、64%の学校から和式トイレの洋式化の要望がでています。

またグローバル化に向け国際理解教育の一環として海外校との人的交流を推進している都立高校もあります。

家庭環境・社会環境とのギャップを無くす為にも、施設整備への特段のご配慮をお願い申し上げます。

(平成27年度政党ヒアリング添付資料

「学校教育環境」に関するアンケート調査結果6頁参照)

- 1 施設インフラ設備を含め既設和式トイレの洋式化等の整備推進をされたい。

四 スクールソーシャルワーカーの活用について

いじめ防止対策推進法にもとづき各校对策委員会等さまざまな取り組みを推進いただいています。私どもも、いじめ問題は社会環境・家庭環境・学校環境等多岐にわたる要因があると認識しています。現在の各高校「いじめ対策委員会」は、教職員の方々とスクールカウンセラーを中心に校内施策を進めていただいています。が、「学校運営連絡協議会」、「防災教育推進委員会」、「学校保健委員会」同様に私どもPTAにも委員として情報開示の機会をいただけるようご支援願ひ申し上げます。

また、スクールカウンセラーによる生徒・保護者のメンタルケアとともに、スクールソーシャルワーカーによる家庭環境等の改善に向け多岐にわたる専門的対応も必要です。スクールソーシャルワーカーの派遣は、都内公立小・中学校へは実現されていますので、都立高等学校への拡大派遣を是非とも推進願ひます。

スクールソーシャルワーカーの全都立高校派遣による生徒や家庭の様々な問題に対する支援環境づくりにご協力をお願い申し上げます。

- 1 全都立高校へのスクールソーシャルワーカーの派遣拡充を推進されたい。
- 2 いじめ防止対策推進法にもとづく施策状況に関し、各校情報開示の機会づくりに努められたい。

要 望 事 項

五 英語によるコミュニケーション体験授業について

私どもの「学校教育環境」に関するアンケート調査における保護者としての意識調査(自由回答)項にて、「英語教育・英語によるコミュニケーション能力・グローバル人材育成」に関する問題提起が多数挙がっております。

国際理解教育を通じ各校いろいろの施策を実施していただいておりますが、語学におけるコミュニケーション力の重要性を考えると体験型学習の機会のより充実に向けた取り組みが必要です。高校学習過程での実験授業は、自然科学分野に対し、人文科学分野が少ない傾向にあります(大学で学習過程では、心理学をはじめ実験型授業は当たり前に行われている)。

生徒たちが将来のグローバル化社会にて将来を担えるよう学習過程のカリキュラム充実と生徒のモチベーション向上と持続性に向けご協力をお願い申し上げます。

- 1 英語によるコミュニケーション体験授業についてカリキュラムへの組み込み等による学習機会の充実・持続性に努められたい。

(体験型授業例

:「近隣大学の留学生との交流」や「イングリッシュキャンプ」等)

以上